

ゆりはま議会

第49号

平成28年2月1日 発行
発行：鳥取県湯梨浜町議会



ふるさと納税大幅増
住民との意見交換会Q & A
地域おこし協力隊着任

2

16

18

『晴れ姿』
(湯梨浜町成人式)

12月
定例会

ふるさと納税 8千万円超える

平成27年第9回12月定例会

平成27年12月定例会が、12月11日から18日までの8日間の会期で開催されました。

今定例会に提案された平成27年度各会計補正予算などの議案を慎重に審議し、提案された19議案すべて、原案のとおり可決しました。

また、議員発議による国に提出する意見書1件も原案どおり可決しました。

補正予算

☆一般会計

歳入歳出それぞれ1億6千122万円を追加し、補正後の予算の総額を97億4千131万円とする。

ふるさと納税

・ふるさと湯梨浜応援基金事業
4千331万円

10月末で寄付総額が8千万円を超え、寄付者管理システムの改修などを行うほか、積立金を増額する。

広域観光強化

・鳥取県中部圏域版DMO整備実践事業
368万円

とっとり梨の花温泉郷広域観光協議会を核として、鳥取県中部圏域版DMO（観光地づくりに推進法人）を整備し、幅広



お礼の品カタログ

サービス利用者

・自立支援給付費
1千844万円

障害福祉サービス利用者の増加に伴う、給付費の増額。

住環境整備

・促進住宅管理経常経費
377万円

はわい長瀬団地の水まわり修繕のほか、老朽化による床や壁の修繕を行う。

0歳児増加

・太養保育園委託料
1千212万円

入園児数の増加などによる増額補正。主に0歳児の増加。

耕作放棄地の解消へ

・中核的担い手農家育成奨励金交付事業
117万円

町外の認定農業者による、町内農地の利用権設定に対する奨励金。

財政健全化へ

・長期債繰上償還元金
2億4千559万円
新中学校など大型事業
実施後も、より弾力的で
持続可能な財政運営をは
かるため、起債の繰上償
還を行う。

高額医療費増加

☆国民健康保険事業特
別会計

高額な医療給付の増
加に伴い、保険給付
費の増額などによる
1千459万円の増額補
正。

☆介護保険特別会計

国保連合会と町を結ぶ
介護保険ネットワークを
鳥取県情報ハイウェイに
切り替えるための経費な
ど31万円の増額補正。

☆下水道事業特別会計

消費税額の確定に伴う
公課費の減額と施設整
備に伴う予算の組替。
工事請負費の増額など
315万円の減額補正。

☆農業集落排水処理事 業特別会計

制度改正に伴う人件費
の減額と消費税額確定に
伴う公課費の減額など
148万円の減額補正。

※公課費：使用料などに
含まれる消費税を納税す
る歳出科目。

地震による修繕

☆国民宿舍事業特別会 計

職員給与費の減額と消
耗品費や10月の地震によ
る屋根瓦の修繕料など
46万円の増額補正。

条例改正

マイナンバー 始まる

☆行政手続における特
定の個人を識別する
ための番号の利用等
に関する法律の施行
に伴う関係条例の整
備に関する条例

マイナンバー法の平成
28年1月1日運用開始に
伴い、町民税の申告、町
民税や固定資産税、国保
税、介護保険料などの減
免を受けるための申請書
などに個人番号（法人番
号）を記載することとな
るため、条例を制定する
もの。

☆湯梨浜町個人番号の 利用等に関する条例

個人番号の利用は、番
号法で厳しく制限され、
番号法に規定されていな

いものには利用できない
が、地方公共団体が条例
で定めることにより、条
例で定める事務などに個
人番号を利用することが
できるため、条例を制定
するもの。

緊急入居に対応

☆湯梨浜町地域定住賃
貸住宅の設置及び管
理に関する条例の一
部を改正する条例

町営住宅みなと団地に、
災害、その他特別な事情
がある場合に入居できる

よつ、条例改正を行うもの。

その他

指定管理者を 決定

☆老人福祉センター東
湖園及び東郷デイ
サービスセンター

指定管理を、社会福祉
法人湯梨浜町社会福祉協
議会に指定。指定の期間
は、平成28年4月1日か
ら5年間。

羽合小増築

☆工事請負契約の締結
契約の目的
羽合小学校教室等増築
工事（建築）

契約の金額
7千149万6千円

契約の相手方

有限会社 共栄組
代表取締役 山崎稔

新教育委員 決まる

☆人事案件

教育委員会委員の人事
案件に同意した。

（敬称略）

教育委員

青木 由紀子

（はわい温泉）

（任期）平成27年12月

25日から平成31年12月24

日



町営みなと団地

本会議での採決結果 12月定例会

議案の内容 (○：賛成 ×：反対)	増井	寺地	河田	浜中	入江	松岡	酒井	上野	浦木	会見	米田
行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
湯梨浜町個人番号の利用等に関する条例の制定について	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
※上記以外の17議案（全19議案。陳情書は除く）は全会一致で可決及び同意しました。											

議案の採決は、光井議長を除く11人で行います。



12月定例会において常任委員会に付託した陳情は、慎重に審査を行い次のとおり決定しました。

件名	陳情者	審査結果
外国人の扶養控除制度の見直しを求める意見書の採択を求める陳情	小坪慎也	不採択 (既に法整備がされているため)
人種差別を扇動するヘイトスピーチを禁止し処罰する法律の制定に関する陳情	在日本大韓民国民団 鳥取県地方本部 団長 薛 幸夫	採択 (意見書提出)
「名護市辺野古への新基地建設凍結と地方自治の尊重、国民的議論の推進を日本政府に求める意見書」提出に関する陳情書	反核・平和の火リレー 鳥取県実行委員会 実行委員長 田中修一	継続審査

◎意見書提出となっているものは、議員発議で政府に意見書を提出しました。

先進地に学び まちづくりに活かす

議会広報常任委員会

平成27年10月29日、大山町議会を訪問し、議会広報制作について調査した。

住民に親しまれる広報誌づくりの取り組みについては、「読んでみたくなる紙面にする」、「住民目線で読みやすい内容にする」、「議会だよりにしない情報も載せる」、「会議録や活動報告ではなく情報誌にする」という編集理念のもと、イン



真剣に研修（大山町議会にて）

パクトのある表紙、簡潔な文章、興味を引く見出し、行政広報と違う情報を載せるなど工夫されていた。

議会活動情報の発信手段として、本会議のみ、インターネットを利用し、ユーチューブで配信している。

また、議員と語る会を年2回開催し、アンケートを取って住民の考えを聞いているとのことであった。

研修した内容をしっかりと議論し、多くの方に読んでいただける議会だよりにしていきたい。

教育民生常任委員会

平成27年11月19日から21日、山口県防府市と大分県竹田市を訪問。デイサービスセンター運営と地域包括ケアシステムについて、取組みを調査した。

防府市にある「(株)夢のみずうみ村防府デイサービスセンター」では、あえてバリアを作った「バリア・アリー」により、生活すべてがリハビリにつながっており、利用者ができそうなことには職員が手を貸さないなど、日常生活が再びできるように、努力しておられた。

毎朝一日の予定を自らが選択し自己管理し、施設内に仮想社会生活空間をつくり、仮想通貨を通



施設の説明を受ける
（(株)夢のみずうみ村防府デイサービスセンター）

じて現実社会への対応力を高めていた。

要支援1・2が介護保険から外れるが、町内にもこのような施設を作るが、公民館などで対応することもひとつの方法だと感じた。

竹田市は、市全体の高齢化率は46.3%と高く、高齢化率60%を超える地域もある。

対策として、「暮らしのサポートセンター」を立ち上げ、サポーターの

養成を行い、生活支援サービスや通いの場としての運営を委託。元気な高齢者が担い手として活躍できる地域をめざしている。

要支援・要介護にならないために、若い世代から介護予防に意識を持ってもらう取組みなど、見習うべき点が多くあった。

経営改善をめざす水明荘

総務産業常任委員会

水明荘

Q. 町内では、8～10月を中心に宿泊客が増えている。インバウンド、特に中国、韓国からの旅行者の増加によるものか。

A. 旅館組合によると、インバウンドのお客さんが増えている。改善計画に収支計画が載っていないが、A. 当面の課題をあげた。一つは、職員の意識。二つ目は、職員の適正配置と無駄のない運営。三つ

によるもの。水明荘は、風呂付の部屋やベッドなど施設の問題で、大きな団体は受け入れられない。

目は支配人の権限強化とリーダーシップ。

Q. 計画が上がっているもので、取り組んでいるものはあるか。

A. 組織の構成を変えること。4つの構成を営業部として一本化して、指導教育している。

さくら工藝品工房使用者決定

パステルアート工房とカフェショップの2組が決定した。

Q. パステルアートとは、具体的に。

A. クレヨンで絵をかくもので、ワークショップ的なことで進められる。1月から運営予定。

地域おこし協力隊

二次募集を行い、4名が応募、1名を採用した。八戸市出身で、泊地域で空き家対策や海の駅「サカナクワイ屋」のPR、小さな拠点づくりに参画してもらう。

Q. もう1名については。

A. 募集をかけて、4月からの採用をめざしている。

緑の再生プロジェクト

Q. 高性能機械を導入されるようだが、町の分担は面積割で9%。伐採量は伐採後は。

A. 素材の生産計画量は、町全体で1万3千669㎡、中部全体で15万1千882㎡。平成27年から5年間。伐採後は植林する。

天女モニュメント

Q. 関さんのほかに、もう1体を誰に依頼されたか。最初のものとの設置場所との位置関係は。

A. 湯村氏に依頼。位置は、来町時に話をする。

Q. どんなものになるのか。

A. 作品自体が石造で抽象的なもの。

Q. スケッチとか、何点が提示なしに、まかせっきりが。

A. 東郷池の波をイメージした作品があるので、



天女モニュメント（イメージ図）

それに近いものに。東郷池と天女がマッチングしたものである。

促進住宅管理は

Q. 移管前に大規模に修繕されたが。

A. 風呂場のカビ、トイレなどの水まわりで、9カ所を修繕する。



パステルアート工房オープン

国保会計がピンチ

教育民生常任委員会

国保税率アップか

平成28年度の国保税の収入は、わずかに増加するものの、財源となる交付金が減るため、収入総額が減少する可能性がある。不足分を賄うため、国保税率を上げるなどの対策が必要と思われる。

Q. 法定外（一般会計）繰入が2千万円程度と考えているようだが、弾力的な考えは。

A. 半年の実績を見ながら議論している。税率アップができないなら、法定外繰入について議論したい。

Q. 消費税が8%になった時点で負担感が増えた



天女伝説の魅力を再発見

いる。法定外繰入やむなしという判断か。

A. 法定外繰入は極力避けた。慎重べきだと思っている。

Q. 県で一本化するのはいつか。

A. 平成30年度。

『ほうき伯耆国羽衣天女伝説』発刊

天女のふる里づくり事業の一環として、天女モニメントと共に取り組んでいる。

Q. 内容に倉吉市も入っている。伯耆国と大きな題が付いているが負担は。

A. 販売分1000冊のうち、倉吉市に350冊引き受けていただく。残り町で販売に取り組む。

Q. 我々も機会があればPRしていきたいが。

A. 町商工会や観光協会、文化団体協議会など、各団体を通して、会員に広げていただくようお願いしている。

売れ行き不調

地方創生・地域住民生活等緊急支援事業（健康推進・スポーツ振興助成事業）の執行率は、12月末現在で5割を切っているため、2月まで延長する。

Q. PR不足なのか、魅力がないのか、十分に考える必要がある。

A. ハワイゆくとうんの回数券の売れ行きは良いが、潮風の丘や龍鳳閣は、年費ということでも今一つ売れ行きが良くない。

Q. 全体の予算の執行率が約47%。執行残があつた場合の取扱いは。

A. 全体枠の中で動いているが、余らないようにしていきたい。



体力づくりに取り組む（羽合小学校）

子どもの運動能力が心配

平成27年度全国体力・運動能力調査結果と、今後の対応が報告された。

Q. 以前と比べて、ここ数年の傾向は。

A. やや体力的に落ちていく傾向はある。小学校では、男子はどの学年も全国平均を下回る項目が多いが、女子は前年より良かった。中学校は全国平均を上回る項目が多かった。

なるべく、授業の合間

セキュリティは大丈夫か

Q. パソコンのセキュリティソフトは、統括的に契約し、管理しているか。

A. 役場、学校、図書館は、それぞれ違うソフトで管理している。役場は、個人情報系と一般業務系に分け、マイナンバーも別に整備している。

一般 質問

町政を問う!

—質問事項—

		ページ
上野 昭二	①家族まるごとウェルカム政策を	9
浦木 靖	①放課後子どもプランは	9
松岡 昭博	①湯梨浜町の目指す農業構造は	10
	②町民に寄り添った子育て支援を	10
濱中 武仁	①予算編成方針と町政の課題は	11
	②情報モラル教育の充実を	11
米田 強美	①認知予防とジェネリックの促進を	12
	②コンビニで納税を	12
増井 久美	①行政区ごとの高齢化対策を	13
	②国保税の引き上げは止めるべき	13
会见 祐子	①防災訓練の現状のあり方は	14
	②子どもの貧困と虐待の対応は	14
寺地 章行	①湯梨浜町版CCRC構想は	15
	②TPPで町の農業は	15



平成27年12月定例会の一般質問は、第4日目の12月14日（月）に行われ、8人の議員が登壇。町政について熱心に議論を展開した。

Q 家族まるごとウエルカム政策を

A 「子育てしやすい町」を実現したい



上野 昭二

を推進してはどうか。

答弁（町長）

大学卒業時までの支援拡充対策として、地方創生総合戦略において、多子世帯に対し、中学卒業時期に、祝いを支給するよう計画。

新たな奨学金制度も、総合戦略に織り込んでおり、大学などを卒業後、湯梨浜町に帰り、特定の

職に就くことを条件に、返還を免除することを検討している。

CCRCのなかで、湯梨浜の良さをしっかりとPRし、移住定住対策と抱き合わせて進め、家族まるごと移住をしっかりとやっつけていきたい。

※湯梨浜町版CCRC

東京圏をはじめとする高齢者が地方に移り住み、健康でアクティブな生活を送るとともに、医療介護が必要なときには継続的なケアが受けられる地域づくり

いよいよ来年度より、全国一斉に総合戦略が展開される。まずは出生数を増やす事が人口論だが、町の総合戦略には、大黒柱や道筋が見えず、焦点がぼけている。

他市町に真似のできない、特色ある具体策『子育て支援を大学卒業まで拡充』し、湯梨浜町版CCRCとを融合させた、家族まるごとウエルカム戦略を図ってはどうか。

また『湯梨浜は鳥取のベッドタウン』へを徹底し、当町ならではの、地の利を活かした町づくり



解体後の学校用地を移住定住者向けに活用を（北湊中学校）



子ども教室での学習（羽合西コミュニティ）

Q 放課後子どもプランは

A 教室の一体型へ調整

「児童クラブ」の二つが明記されているが、基本的な考えは。

次に、地域に子どもの姿を見かけることが希薄になっているが、このなかで地域に何を求めているのか。

次に、不審者・地震・火災・津波に対して、園・学校の避難訓練、マニユ

湯梨浜町の放課後子どもプランは「子ども教室」



浦木 靖

答弁（町長）

子どもは、地域の人の関わり合いの中で育つことが、健全な発達につながる。

放課後児童クラブは、避難訓練実施に向け検討中、こども園ではマニユアルを作成し、訓練を行っている。

保護者が入園施設を選択する際は、施設の種類の、理念、定員、距離がポイントとなる。

答弁（教育長）

放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体型は、4月から各小学校で実施出来るよう調整中。

小・中学校での避難訓練は、マニユアルを作り、実施している。

Q 湯梨浜町の目指す
農業構造は

A 組織化を進める



松岡 昭博

や、TPPによる収入減少対策の実施。

①米については、国内需要が減少する中、価格の下落が懸念されている。梨は輸入量も少なく、直接的な影響はないと思っている。ぶどうにつ

いても、影響は限定的と思われる。農作業の効率化を進めるために、引き続き組織化を進めていく。
②町内全地区に、認定農業者と集落営農組織を、バランスよく育成しようとして計画している。
③現在、町独自の中古機械の導入など、支援策を検討している。
収入減少対策については、国の具体的な対策を待って検討していく。

町は、農業を基幹産業として育成していくため、認定農業者や集落営農組織の育成などに取り組んでいる。
一方、TPP交渉が大筋合意となり、今後、益々厳しい経営環境になるのではと危惧しているが、次のことについて所見を問う。
①TPPによる本町農作物への影響と、影響を受ける作物の対策。
②これからの町農業構造の誘導方向。
③認定農業者になりたいと思わせるような施策



大規模農家の収穫作業（門田）

Q 町民に寄り添った
子育て支援を

A 必要性や緊急度で判断

町政に対する色々な要望や意見が聞こえてくる。その人達から出る言葉は、「町は理由を並べて出来ないと言っている。前向きに、スピード感を持って対応してほしい。」とのことである。次のことについて所見を問う。

- ①町民から要望・意見があったときの町の立ち位置と対応方針。
- ②各小学校に、通級学級や保護者会の設置。
- ③まつぎきこども園に避難経路の設置。
- ④同園にチャイルドシートの設置。



まつぎきこども園に配備されたチャイルドシート

①町民からの要望などは、必要性や緊急度などを判断し、方針を出している。
③改修された、乳児室などは、法には抵触しないが、安全に避難することは重要。新年度早々に着工したい。
④ファミリースポーツセンターの援助活動を支援するため、準備を進めている。

②通級学級は、羽合小学校に設置されている。今後、それぞれの学校で、指導にあたる体制が整えられないが、県教育委員会と協議をしたい。
羽合小学校では3年前に、保護者会の開催を呼びかけたが、参加者はなかった。

Q 予算編成方針と
町政の課題は

A 計画の着実な前進を図る



濱中 武仁

た、町育英奨学金制度の
拡充は。

答弁（町長）

①「第3次総合計画」や
「まち・ひと・しごと創
生総合戦略」など各種計
画の着実な前進を図る。
国の地方創生交付金のさ
らなる上積みも期待して
いる。

- ①平成28年度は、地方創
生に本格的に取り組む年
度となるが、新年度予算
編成方針と重点課題への
取り組み。また、国の地
方創生に対する感想は。
- ②総合計画、過疎計画の
検証と、今後5年間をど
う捉えているのか。
- ③安倍首相は、一億総活
躍社会の実現に取り組む
としている。その一方で、
国と地方を通じた、歳出
の効率化に取り組むとし
ているが、歳入の確保と
歳出の効率化をどう考え
ておられるのか。
- ④監査委員が提言をされ



過疎計画策定幹事会

- ②「地域の活力維持によ
り町を作る」を基本目標
として事業を展開する。
- ③国・県の情報収集・分
析を徹底し、的確に予算
要求に反映させる。

全事業に対し、費用対
効果、必要性、緊急性を
ゼロベースで検証する。
④大学卒業後、湯梨浜町
に定住することを条件に
奨学金制度を創設したい。

- ①スマートフォン（スマ
ホ）などの長時間利用に
よる、健康や学習への悪
影響のほか、いじめや犯
罪の温床になるなど、多
くの課題がある。これま
で以上に情報モラル教育
が必要だと思うが、本町
の小・中学生のスマホな
どの使用状況は。
- ②スマホなどの長時間利

Q 情報モラル教育の充実を

A 今後もモラル教育に
取り組む



情報モラル学習（東郷小学校）

答弁（町長）
学校と家庭、地域が連
携し推進していく。

答弁（教育長）

①携帯電話、スマート
フォンの保有率は小学生
21・8%、中学生28・7%
となっている。
②視力に影響があるので
はないか。また家庭学習
の時間不足、集中力不足
による伸び悩みを心配し
ている。

③毎年「情報モラル教室」
を開催している。

PTAでも保護者研修
をしている。

④今後も引き続きイン
ターネットリテラシー、
情報モラル教育に取り組
む。

- 用による健康や学習への
悪影響などを、どのよう
に捉えているのか。
- ③児童生徒、保護者に対
する情報モラル教育の現
状と課題は。
- ④今後のインターネット
リテラシー、情報モラル
教育をどう考えているの
か。

※濱中議員はこのほか
に、「18歳選挙権への
対応」について質問し
ました。

Q 認知予防と
ジエネリックの促進を

A 引き続き普及に力を入れる



米田 強美

答弁（町長）

カラオケと体操をセットにした健康教室は、認知予防プログラムのひとつで、以前から介護サービス事業所の各デイサービスで実践されている。

町独自に製作した、ゆりりん体操もその典型。引き続きその普及に力を

カラオケを歌うだけではなく、映像の体操指導に合わせて一緒に体を動かすことで、多くの脳が刺激され活性化することが確認されている。認知症予防対策として注目を集めており、健康教室に導入すべきである。

ジエネリック医薬品の認知度は上がっているが、頼むタイミング、頼み方が分からないとの声も聞く。

保険証更新時に併せて、ジエネリックの希望カード（シール）を送付してはどうか。



タッチパネルによる認知症診断

入れていく。

本町のジエネリック医薬品利用割合は76.4%で、全国で第6位、県内では1位である。さらに使用促進を図るため、来年度保険証更新時に保険証とともにカードかシールを送るよう考えている。効果的な方法を検討し、実施したい。



出納室で納税

Q コンビニで納税を

A 導入の考えはない

答弁（町長）

近年の社会情勢の変化により、ライフスタイルは多様化している。税金を払いたくても、金融機関の窓口の開いている時間帯では都合がつかないという声を聞く。

24時間いつでも町税を納付することができるように、コンビニ納付を提案する。

時代の流れという認識はあるが、一方でコンビニ納付へのシステム導入の初期費用に約260万円、毎年のシステム保守委託料に約150万円、また、毎年250万円以上の新規の負担が生じる。他の自治体でも、この費用負担が一番の問題

点である。

また、本町は口座振替を進めており、コンビニ納税導入自治体と比べ徴収率は遜色ない状態である。

町民の利便性とコストや公平性のバランスを考えながら進めるべきと考えており、導入の考えは持っていない。

※米田議員はこのほか、「投票率の向上について」質問しました。

Q 行政区ごとの
高齢化対策を

A CCRRC構想でマッチング



増井久美

て暮らせる施策をするこ
とが地方創生ではないの
か。

答弁(町長)

地元に住む高齢者の福
祉・健康の充実を図るこ
とは、重要な課題である。
現在、抱えている高齢
者福祉での課題「高齢者
住宅等の入居者需要」

「在宅支援の充実」、「介
護予防・健康づくり」な
どをCCRRC構想の中で
マッチングさせることに
より、「福祉の充実」と「仕
事の提供」、「地域経済の
活性化」などを図ってい
こうとするものである。

当町の高齢化率は28%
であるが、区によって率
の高低に差がある。
また、小中学生、未就
学児童の数も差がある。
地方創生が叫ばれて久
しいが、地方創生を言う
なら持続可能な地域を創
り上げるといふことでは
ないか。
「空き家に若者を呼び
込む工夫」「町営住宅の
充実」など行政が手をさ
しのべなければならぬ
所にはきちんと手をさし
のべるべきである。
CCRRC構想よりも地
元に住む高齢者が安心し



敬老会で長寿を祝う(泊地域)



検診を呼びかける町広報車

Q 国保税の引き上げは
止めるべき

A 運営協議会で協議

医療費が増加し、国保
会計がもたなくなると危
惧し、町報や「住民と議
会との意見交換会」の場
でも説明がされた。
国保会計の実情と、医
療費増加の原因は何か。
また、それにどう対処し
てきたのか。
高齢者は消費税の増税

や年金の引き下げなどで
暮らしは大変な状況であ
る。
介護保険料が引き上げ
られ、この上、国保税が
引き上げになれば暮らし
が成り立たなくなる。一
般会計から繰り入れをし
て引き上げを止めるべき
ではないか。

答弁(町長)
医療費増加の原因の一
つに、新生物(ガン)に
よる医療費が、他の疾病
より高くなっていること
が考えられる。
医療費を減らすために
定期的に検診を受け、特
定健診を含め各種がん検
診の受診率向上を図るた
め、各地区の保健推進委
員と連携し、町民に受診
の呼びかけをしている。
一般会計からの繰り入
れについては、被保険者
の負担が原則であり、今
後、国民健康保険運営協
議会の意見を聞きなが
ら、適切な対応を図りた
い。

Q
防災訓練の
現状のあり方は

A
自主防災組織の強化に努力



会見 祐子

答弁（町長）

住民へは、防災行政無線を通して、地震発生と津波の心配がない旨の放送を行い、職員へは町内の被害状況の把握に努めるよう指示をした。

南海トラフでは、鳥取県でも最大震度5強も予

測されることから、今後も訓練はもとより、住民への啓発活動にも努力していく。

自主防災組織の強化に努力するとともに、防災特別対策官による防災講習（11月末・31地区実施）も継続し、実際の災害に強い住民養成につなげていきたい。

町防災訓練当日の朝、震度4の地震が当町を襲った。訓練の状況、対応はどうであったか。南海トラフと津波の災害について、当町への影響と対策は。避難所における対応訓練は出来ているか。

日常生活で、災害時を予測しての取り組みが大切である。家族の命、高齢者の命を守る為の知恵袋を出し合える訓練を各集落で取り組んで欲しい。



家庭で非常食を準備

Q
子どもの貧困と虐待の対応は

A
情報を共有し、早めの対応

税の滞納状況から、教育、子育て支援では、生活困窮者に気づくことはなかったか。貧困から生まれる虐待は社会問題であるが、相談窓口、指導体制はあるか。

母子世帯の84・8%は生活が苦しいといわれる。この苦しみに行政は気づくのが遅い。地域の支えが大切であるが、町民一体となり、見守る体制がとれているのか問う。



役場相談窓口（子育て支援課）

答弁（町長）

湯梨浜町の状況は、「子供の貧困対策に関する大綱」で示された貧困に関する指標13項目での判断で、概ね指標数値をクリアしていると思っている。

見守り体制については、要保護児童対策地域協議会において、学校、こども園、倉吉児童相談所、医療機関などで情報共有し、早めの通告、相談をお願いしている。

答弁（教育長）

学校現場では、朝の健康観察の際に、担任が気を付けて子どもの様子を見守っている。

3日以上の欠席が続くと、担任が家庭訪問を行っている。

【耕作放棄地】

- Q 歯止めがかかったと聞いたが、面積は増えていないということか。
- A 50haについて、空いてしまうところに手立てができた。砂丘地においても、町外企業が芝栽培に取り込まれることで、耕作放棄地の解消に向けて少し動いている。

【中学校】

- Q 通学路については、街灯を付けてほしいとか、歩道を広げてほしいとか、そういう意見等が出てくると思う。
- A 教育委員会で準備委員会を立ち上げ、その中でいろいろ論議されていく。議会も陳情など、県に対していうことはできるので、積極的に取り組んでいきたい。
- Q 新中学校には、一般住民の避難場所としての機能はあるか。
- A 防災計画に基づいて、新中学校も取り組む。

【特定健診】

- Q 健診の割合が25.3～25.7%で推移しているというのは湯梨浜町か。県下市町村で何番目か。全国からすると、どの位置にあるのか。
- A 平成26年度特定健診受診率 26.0%（県平均30.7%）全国版（平成24年度 33.7%）19市町村中17位（悪い方）。全国での順位は分からない。
- Q 健診率の高いところがどのようなやり方をしているのか、視察などを考えてもらえたらと思う。
- A 医療機関と協力して、前向きに取り組んでいきたい。

【国 保】

- Q 以前、単町では維持するのが大変ということで、県で一本化していくという話を聞いたが、具体的なことはまだ進んでいないのか。
- A 具体的に前進している。数年のうちに一本化し、将来的には、全部の保険、共済など、一本化になっていく。

【介護保険】

- Q 認知症の地域支援推進委員の設置を地方創生の総合戦略に位置づけた大きな計画として取り上げていただきたい。
- A 総合戦略は、まち・ひと・しごとで、人口移動の一極集中を打破することが問われている。各地域で介護保険も含めて、注視しながら見守っていく。

【敬老会】

- Q 参加を呼びかけるときに、障がい者の方をどのようにフォローしていくか。車いすの方のフォローがあれば。
- A 要望があれば、専用車で送迎するなど対応している。

【意見交換会】

- Q 住民と議会との距離が近まる会で大変いいものなので、今後とも続けていただきたい。
- A 継続して取り組んで行く。

【議会広報】

- Q 大変読みやすい広報だと思う。引き続き質の高い議会広報を作っていただきたいと思う。
- A これからもみなさんの意見を聞きながら、より良い広報紙づくりに取り組みたい。
- Q 録画中継がホームページにある。3か月くらいタイムラグがありリアルタイムではない。
- A 今後は、早く更新に努める。

※たくさんのご意見ありがとうございました。
※議会ホームページにも会議録等を掲載しています。
(<http://www.yurihama.jp/page.cgi?p=13301>)

「住民と議会の意見交換会」を開催しました



(東郷地域での様子)

議会の説明責任を果たすとともに、町民の声を聴き、これからの活動に活かすため「住民と議会の意見交換会」を11月2日、5日、6日の3日間行いました。

議会・町政に対して多数のご意見・提言を伺いました。すぐに回答できない問題などは、今後、それぞれの委員会で協議して対応方針を検討、議会広報に掲載していきます。

◆ 寄せられた意見と回答 ◆

【地方創生】

- Q 人口ビジョンの概要、総合戦略概要ができていくが、これが絵に描いた餅にならないように。
- A これから5年間かけて、どういう芽を作っていくか。議決責任を自覚し、事業の進捗監視、効果の検証、提言など審議に努める。

【CCRC構想】

- Q 東郷湖の周り見ると、医療と介護と健康、スポーツジムの関係と、グローバル化が進む中で、外国人旅行者の受け入れなどの考え方はないのか。
- A CCRC構想を鳥取県が進めようとしている。湯梨浜町も空き家対策も含めて、外から人を呼び込むか、観光ともリンクさせるなど、意見や提言しながら進めている。

【日本版DMO】

- Q 旅行者に史跡や歴史など、適切に説明できるボランティアガイドを養成する態勢を考えてみては。
- A 日本版DMOの話になってくるが、広域観光を行政と詰めてみたいと思う。現在、梨の花温泉郷の法人化が進められている。

【過疎計画】

- Q 12月議会に提案されるのか。議会提案までに、具体的な事業を教えてください。
- A 3月議会で示される。「広報ゆりはま」やHPで広報される予定。
- Q 過疎自立支援計画を総合計画、戦略の中に入れていただきたい。
- A 地方版総合戦略は、人口減少克服、地方創生を目的としている。総合計画などは各地方公共団体の相互的な振興や発展などを目的としたものであり、必ずしも同じではない。

【温泉利用】

- Q 旅館の再生をやりたいものがないのだろうか。全国に問いかけてみたらどうだろうか。ハワイに来れば免税店があるとか。
- A 温泉熱を利用した事業を展開。2次利用の中で、龍鳳閣、水明荘に配湯して、シャワーなどに活用。それとは別に、農業、ハウスとかに温泉熱を利用するようなことが今後考えられている。免税店はおもしろい。特区など、研究してみたい。

町民インタビュー

初めまして地域おこし協力隊です

佐藤 ^{はるき} 遥さん（泊）



岩手県から引っ越して参りました、佐藤遥と申します。

2011年から大学で農業を専攻。しかし、東日本大震災が心に引っ掛かり休学。震災や農業のボランティア活動に従事。尾瀬の山小屋でバイトをした後、岩手から鹿児島島の屋久島まで自転車（ママチャリ）旅行をしました。

その後、復学と休学を繰り返し、色々な活動をする中で「湯梨浜町の体験ボランティア制度」を知りました。

この制度を利用し、昨年5月に「春なのに三八市」の手伝いをしました。行事の打ち上げでは、地元の方が「若い人に、地域文化の継承をしっかりとしなければ」と熱く語られ、若い移住者からは、地域の課題や将来の展望を訴えていた光景がとても印象的で、なかなか面白い事が起こりそうな町だと感じました。

湯梨浜町は、とにかく親切な人が多い。宅配をお願いしたら野菜を頂戴し、郵便局では心憎い対応に感動。今回の「地域おこし協力隊」も、私の将来を気に掛け、進めてくださる方があっての結果だと、感謝しています。

「地域おこし協力隊」は、型にはまらない可能性を秘めた、やりがいのある仕事だと思います。

しかし、地元の方の協力がないと良い結果が出ないと考えます。地域の様々な事を学び、しっかり頑張りますので、よろしくお願いします。



「よどや」でボランティア（松崎）

議会の傍聴をお気軽に

☎ 35-5341 FAX 35-3697 メール ygikai@yurihama.jp
あなたの声をお待ちしています。

編集後記

2016年の年明け、例年になく暖かな日が続いている。ニュースでは、あちらこちらの梅の木、早すぎる開花も耳にする。その一方で、スキー場への影響が深刻化しているようだ。大山では雪不足のため年末年始の営業ができず大きな打撃となっている。

そのような中、本町でも新成人の門出を祝う成人式が、1月3日に行われた。会場には、新成人140人が集い笑顔にあふれていた。歩む道は違うが、それぞれの夢に向かい行動してほしい。そしていつまでもふるさと湯梨浜を大事に思ってもらいたい。

（記 濱中）

広報常任委員会

編集委員一同